

令和5年度半田市市民活動助成金審査会(三次募集B日程) 第2次審査 議事録

日時	令和5年9月19日(火) 10時00分～12時10分
場所	半田市市民交流センター
会議次第	- あいさつ - 第2次審査(プレゼンテーション審査) ・はじめの一步部門 2団体 ・コラボレーション部門 1団体 - その他 ・令和6年度事業に係る半田市市民活動助成金審査会の日程について
委員	(委員長) 千頭聡(日本福祉大学 国際福祉開発学部 特任教授) (委員) 戸田愛(非営利活動法人ぱれっと 副理事長) 曾根香奈子(一般社団法人 SDGs design 代表理事) 企画部長: 山田幸、市民協働課長: 藤井寿芳 ※敬称略
事務局	市民協働課主幹: 竹内雅香子 主事: 天野利紀、村瀬有佳子
次第	議事概要
1.あいさつ	主幹あいさつ
2.第2次審査 (プレゼンテーション審査) ・はじめの一步部門	<NPO 婚活父母の会> 【代表者説明】 事前質問に基づき説明 【委員からの質疑・意見・確認事項】 ・収入の部の財源が「会員の寄附」となっているが、どの程度会員から見込めるのか。規約に規定されていないが、会員とはどのような人か。 →会員は、活動の趣旨に賛同した人で現在5名いる。全員が金銭的支援をするのではなく、人的支援をしてくれる会員もいる。 ・持続的に活動するため、受益者負担を検討するなど運営方法を見直す考えはあるか。 →活動を持続させることと金銭面は関係ないと考えている。ニーズのある人同士がマッチングできることが目的で、対象者が成婚しても会費を徴収する予定はない。団体の活動に賛同いただける気持ちがあって、寄附金という形で

	あれば受け取るが、団体側から強制はしない。 ・情報交換の方法や団体が対象者へどのようなアドバイスをするか等具体的な活動内容は何か。 →当助成金を活用して広報することで対象者への認知が高まり、対象者からの相談で情報を集めることができる。その情報を基に、対象者の条件が合えばマッチングできるよう支援を行う。 ・成婚に至る以前にできる対象者への支援は考えているか。 →はんだ市報やケーブルテレビ等で広報し、悩める親世代からの相談を受け付ける。その活動の積み上げが情報の蓄積となり、紹介できる人材を増やすことに繋がる。 ・相談の対象者は、未婚の子の親を想定しているという解釈でいいか。既に、マッチングできるほどの対象者は複数いるか。 →限定はしていないが、未婚の子の親世代を相談者として想定している。多くはないが、何人か対象者はいる。 ・情報交換のための情報は個人情報が多く含まれるため、使用方法が懸念される。運営をどのように考えているか。 →プライバシーポリシーを作成しており、対象者に説明して理解をいただく。 <NPO 法人 まあるい> 【代表者説明】 事前質問に基づき説明 【委員からの質疑・意見・確認事項】 ・NPO 法人として幅広い活動があるが、事業名の「〇〇部」とする理由は。 →ヨガの事業としては既に活動しているが、今回、中学生を対象に親しんでもらいたいため、学校の部活動のように「ヨガ部」とした。 ・半田市での「部活動改革」が背景にあると思うが、地域でのスポーツクラブとの連携はできているか。 →既に市のスポーツ課に助言いただいております、今後地元である青山スポーツクラブとの連携を図っていく。ゆくゆくは、武道館や学校内で活動できると、家庭の負担や子どもの安全性を考慮して活動できるため、連携を進めていきたい。 ・法人の活動として、グループホームの経営とは何か。 →委託から始める話が出ており、精神障がい者のグループホームの経営を行っていく予定。 ・民間の会場を使用する予定だが、そのフィットネスクラブとの関係性は。
--	--

・コラボレーション部門	→他のスタッフが以前働いていたことから厚意にさせてもらっており、定期的にスタジオを借用させてもらえる。 ・体験会の中に英語を取り入れる等工夫しているが、今後もどのように継続していく予定か。 →ヨガにプラスして学べる機会をつくることで、子どもにとって一石二鳥の活動になることを期待する。健康維持には食育も大事で、心身ともに鍛えられる。子どものころから自立心を育めるよう工夫して学ぶ機会を作っていく。 ・法人の予算で、ヨガ指導者の育成・派遣事業収益が主軸となっているが、どのように考えているか。 →法人立ち上げの際に収入の柱になると予測して予算立てしたが、運営していく中で難しいことが分かり、団体の認知が拡がり将来的に主軸として活動していけたらと考えている。 ・中学生が対象だが、広報はどのように行う予定か。 →以前チラシを作成した際には、教育委員会に後援をもらい学校で広報してもらった。今回も学校でチラシを配付し、新聞折込で多世代の方への周知と子や孫への勧めを期待したいと考えている。 <MIM> 【代表者説明】 事前質問に基づき説明 【委員からの質疑・意見・確認事項】 ・自治区の勧誘は具体的にどのようなことをするのか。 →地域の人のごみ拾いやイルミネーションのデザイン等に参加してもらい自分事として考えてもらうことをきっかけとする。地域の幼保小中学校へ自治区のアンケートを実施することを考えている。自治区に加入していないが故に、必要な情報が入らない世帯もあるため、まず自治区について知ってもらうことが第一と考えて認知度を高める。 ・風景コンテストは具体的にどのようなイメージか。 →花園小学校で募集し、地元の好きな風景を描いてもらい、参加者全員を表彰したいと考えている。作品は、風景に合わせた近隣の青山駅や小学校、公民館、憩の家等で掲示しようと調整している。 ・MIMとしての団体の継続性や今後のビジョンはどうか。 →現在の MIM のメンバーは、各所で活躍する行動力・カリスマ性のある人が多く、各々の得意分野で協力体制ができているため、継続できると考える。今後も「自分でできることをできるだけやってみる」方針で活動しているので、
--------------------	---

【審査結果】	活動できる範囲で継続していきたいと考えている。 ・ごみ拾いやイルミネーションなどを実施する効果測定は。 →ごみ拾いに参加した人数や、自治会への問い合わせ加入の数字等が考えられる。その根拠に基づいて、自治会への加入アプローチを考えていきたい。 ・助成金は最大でも3年間である。今後の展開はどのように考えているか。 →当団体の成り立ちは、「自分でできることをできるだけやってみる」方針で、地域のごみ拾いイベントから大きくなってきた団体である。まずは、自分たちの力でできる範囲で活動し、何かを犠牲にする等発生するならば、規模を縮小して活動するなど時代に併せて柔軟に活動していきたい。 評価合計点数が評価基準点を満たした2団体（NPO 法人まあるい、MIM）を採択とし、NPO 婚活父母の会は審査保留とする。
3.その他	令和6年度事業に係る半田市市民活動助成金審査会の日程について事務局から説明

講評

NPO 婚活父母の会	※審査保留→再審査（採択） 今後の活動において半田市担当職員との十分な情報共有のもと、計画を着実に進めてください。 寄付金が途絶えた際の持続性について、十分な検討を行ってください。 また、審査会で話のあった通り、収集した個人情報については厳格に管理し、保護するための規定を策定し、安心して相談できる環境を整え、活動実施に取り組んでください。
NPO 法人まあるい	社会課題である、中学生の運動習慣の問題を的確に捉えている事業だと考えます。ここ半田市でも部活動の縮小や廃止が行われていくにしたがって、地域の民間団体と公的機関が連携し協働することが今後はさらに必要だと考えます。今後の展望として、事業が継続して行われていくためには、費用面や場所など、環境面は懸念事項が残るものの、このまちの子どもたちを支える一助になることを願っております。
MIM	単なるイベント開催ではなく、一つ一つの企画を地域の人たちとともに創り上げていく過程、高く評価しています。住民が参加している実感がもてる企画も期待がもてると感じました。

	この事業を展開していく中で、住民の方たちがこの地域のよいところや改善が必要なところに気づき、したいことを叶えられるよう、ムリなくお互いのできることを提供し合あえる地域になっていくこと、また他の地域のモデルとなっていくことを期待しています。
--	--